

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-233772

(43)公開日 平成6年(1994)8月23日

(51)Int.Cl.⁵

A 6 1 B 17/04

16/00

識別記号

庁内整理番号

8825-4C

8825-4C

F I

技術表示箇所

審査請求 有 請求項の数 1 F D (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平5-44702

(22)出願日 平成5年(1993)2月8日

(71)出願人 393004362

森田 新一

三重県名張市百合が丘東8番町143番地

(72)発明者 森田 新一

三重県名張市百合が丘東8番町143番地

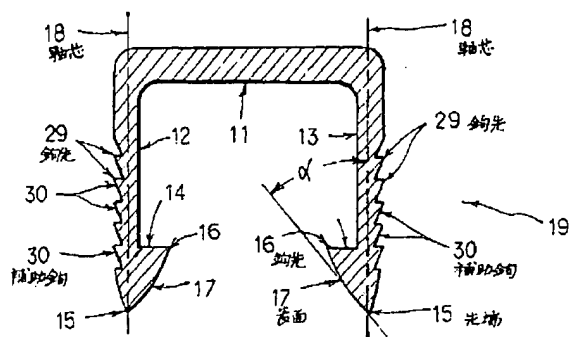
(74)代理人 弁理士 千葉 茂雄

(54)【発明の名称】 解剖体縫合器

(57)【要約】

【目的】 遺体解剖に使用し、死因についての疑義を惹起しない解剖体縫合器を得る。

【構成】 解剖体縫合器19を、連結軸部11を挟む左右の針軸部12・13によってU字ないしコ字形に燃烧性材料によって構成するものとし、各針軸部12・13の先端部にU字ないしコ字形を成して平行に向き合う他方の針軸部側(12または13)に向けて鉤14を突設し、各針軸部12・13の先端を鉤針ないし矢尻状にし、解剖体20に差し込んで容易に抜去し得ない形にする。解剖体縫合器19は、燃烧性材料によって構成されているので、解剖遺体の焼却処分後に焼却炉に残ることがなく、その使用によって死因に対する遺族の誤解や疑義をまねくことがない。



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】(a) 連結軸部11と、その両端より平行に向き合って突き出た針軸部12・13とによってU字ないしコ字形に構成されており、(b) それらの各針軸部12・13の先端部からは平行に向き合う他方の針軸部側(12または13)に向けて鉤14が突き出ており、(c) それらの各針軸部12・13の先端15から鉤先16に至る部分において、平行に向き合う他方の針軸部(12・13)に向き合う部分の表面17と、針軸部(12・13)の軸芯18との交叉角 α が鋭角をなし、(d) 全体が可燃性材料によって形成されていることを特徴とする解剖体縫合器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、切創し解剖した解剖体の切口を縫合する解剖体縫合器に関するものである。

【0002】

【従来の技術】解剖体の切口の縫合には、手術に使用される縫糸やクリップが利用されている。縫糸を使用する場合は、切口を細かく綺麗に縫合することが出来るが、熟練を要し労力と時間がかかる。一方、クリップを使用する場合は、切口を摘んで閉じ合わせるだけでよいので簡便に縫合することが出来るが、仕上がりが雑になり、細部や体内の縫合には適さない。然るに、手術と異なり解剖の場合は、使用済になった解剖体は焼却処分されるので、解剖して出来る切口を細かく綺麗に縫合する必要はなく、そのことからして解剖体の縫合には簡便に使用し得るクリップが普及しつつある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】切口の縫合に使用されるクリップは、金属材料によって形成されており、解剖体の焼却処分後にも焼却炉に残る。特に、遺体解剖の場合には、焼却処分後に焼却炉に残るクリップの金属破片は、遺族の感情を逆撫でし、死因に対する無用の疑義をまねく等、種々のトラブル発生の原因になるので、クリップによらず手縫いによって解剖後の縫合を行わざるを得なくなる。しかし、手縫いによる場合は解剖後の処理に長時間を要するのみならず、誤って針が指先に刺さったり、針に触れて指先が傷付くこともあり、その際にエイズや肝炎に感染する危険がある。

【0004】

【発明の目的】そこで本発明は、解剖体の切口を簡便に縫合することが出来ると共に、解剖体の焼却処分後に焼却炉に残ることなく完全燃焼し、遺体解剖にも使用し得る解剖体縫合器を提供しようとするものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明に係る解剖体縫合器19は、(a) 連結軸部11と、その両端より平行に向き合って突き出た針軸部12・13とによってU字ないしコ字形に構成されており、(b) それらの各針

2

軸部12・13の先端部からは平行に向き合う他方の針軸部側(12または13)に向けて鉤14が突き出ており、(c) それらの各針軸部12・13の先端15から鉤先16に至る部分において、平行に向き合う他方の針軸部(12・13)に向き合う部分の表面17と、針軸部(12・13)の軸芯18との交叉角 α が鋭角をなし、(d) 全体が可燃性材料によって形成されていることを特徴とするものであり、針軸部12・13の先端15は概して鉤針ないし矢尻状を成し、解剖体20に差し込まれると容易には抜きし得ない形になっている。

【0006】図1は、解剖体縫合器19を解剖体20に差し込む差込器具21を図示する。差込器具21は、事務用紙を綴じるホッチキスのように、多数の解剖体縫合器19を揃えて嵌合装填し得る口字形断面の角形筒体22と、解剖体縫合器19を押し出す押出部材23とを主要部として構成されている。角形筒体22の内部は、解剖体縫合器19が内接する口字形断面の空洞になっており、その空洞の先端側は、角形筒体22の長さ方向に直交する止め板24に塞がれており、角形筒体22の他端から空洞に嵌め込まれて装填された解剖体縫合器19の連結軸部11と針軸部12・13が止め板24に押し付けられて密着するようになっている。解剖体縫合器19の止め板24に密着した状態において、その密着した連結軸部11に向き合う角形筒体22の部分と、その左右の針軸部12・13の先端15・15の向き合う角形筒体22の部分には、連結軸部11と同じ長さのスリット25・26が付けられており、連結軸部11を一方のスリット25から押圧すると、その密着していた解剖体縫合器19が止め板24に沿って移動して他方のスリット26から押し出されるようになっている。押出部材23は角形筒体23にピン接合されており、押出部材23の先端からはスリット25に嵌合する押出柄27が突き出ており、角形筒体22と押出部材23を挟持すると、押出板27がスリット25に嵌合して連結軸部11を押圧し、他方のスリット26から解剖体縫合器19が押し出されるようになっている。

【0007】而して、針軸部12・13の先端15を切口28の左右に向けて差込器具21を解剖体20に載せ、角形筒体22と押出部材23を挟持し、押出板27が連結軸部11を押圧すると、解剖体縫合器19が角形筒体22から押し出され、針軸部12・13が解剖体20に差し込まれ、鉤14が解剖体内部(20)に引っ掛かり、針軸部12・13が解剖体20から抜け難くなるので、切口28が連結軸部11を介して縫合されることになる。(図6)。

【0008】鉤14は、針軸部12・13の先端部分が折れ曲がった形のV字状を成すものでよいし(図1、図2、図4)、針軸部12・13の先端部分の連結軸部側(11)が高く隆起した Δ 字状のものであってもよい(図3)。

3

【0009】針軸部12・13を解剖体20から一層抜き去し難くするには、鉤14と同様に、鉤先29が針軸部12・13の先端15とは逆向きになった補助鉤30を針軸部12・13の周面に付設するとよい(図3)。

【0010】解剖体縫合器19は、硬質プラスチック材料を射出成形して1個ずつ製造することも出来るし、また、鉤14となる隆起を左右両溝縁の内側に有するコ字形ないしU字形断面のチャネル材(溝材)を押出成形してから裁断加工して作ることも出来る(図4と図5)。その場合、事務用紙綴具のホッチキスの針の如く、1個

【0011】又、チャネル材を裁断加工して解剖体縫合器19を製造する場合には、針軸部12・13の連結軸部11に接近した部分31をカットせずにおき、そのカットされない一部31を介し、事務用紙綴具のホッチキスの針の如く、前後の解剖体縫合器19a・19bが連結した形のものとする事も出来る(図4・図5)。

【0012】

【発明の効果】本発明によると、

(1) 鉤14が解剖体内部(20)に食い込んで引っ掛かるので、差し込まれた針軸部12・13は解剖体20から容易には抜けず、切口左右(28)に差し込まれる針軸部12・13を連結する連結軸部11によって切口28が縫合される。

(2) 手術と異なり解剖の場合は、解剖体20を焼却処理するまでの僅かな時間だけ切口28が閉じ合わされた状態にあればよく、特に遺体解剖では解剖体20は静かに安置され格別強い外力を受けることがないので、差し込んだだけの針軸部12・13によって解剖体縫合器19が解剖体に係止され、それらを連結する連結軸材11によって切口28を縫合しても、切口28が解けるような不都合は生じない。

(3) 解剖体縫合器19は、可燃性を有するプラスチックの成形加工によって安価に製造され、その全体が可燃性材料によって形成されているので、解剖体20の焼

4

却処分後に焼却炉に残ることはなく、遺体解剖にも使用することが出来る。

(4) 解剖体縫合器19は、ただ針軸部12・13を解剖体20に突き差しして使用するものであるから、切口28を簡便且つ効率的に縫合することが出来、また、エイズや肝炎に感染する危険もなく、よって解剖体20の縫合に頗る好都合である。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る解剖体縫合器の差込器具に装填された状態での斜視図である。

【図2】本発明に係る解剖体縫合器の斜視図である。

【図3】本発明に係る解剖体縫合器の断面正面図である。

【図4】本発明に係る解剖体縫合器の斜視図である。

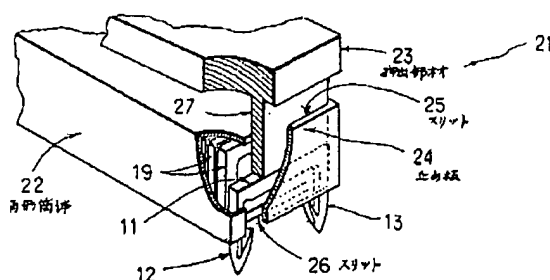
【図5】本発明に係る解剖体縫合器の側面図である。

【図6】本発明に係る解剖体縫合器によって縫合された解剖体の切口の斜視図である。

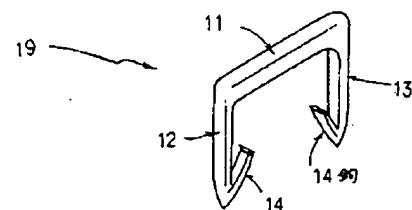
【符号の説明】

- 11 連結軸部
- 12 針軸部
- 13 針軸部
- 14 鉤
- 15 先端
- 16 鉤先
- 17 表面
- 18 軸芯
- 19 解剖体縫合器
- 20 解剖体
- 21 差込器具
- 22 角形筒体
- 23 押出部材
- 24 止め板
- 25 スリット
- 26 スリット
- 27 押出板
- 28 切口
- 29 鉤先
- 30 補助鉤
- 31 接近した部分

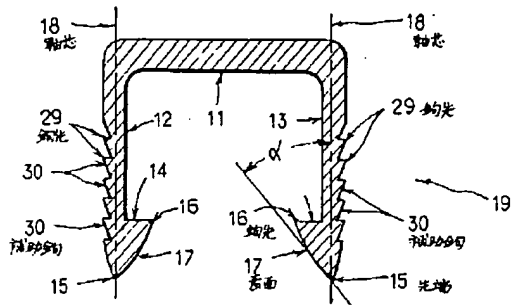
【図1】



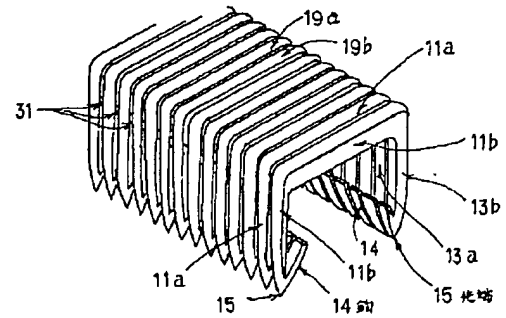
【図2】



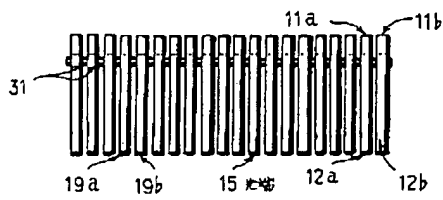
【図3】



【図4】



【図5】



【図6】

